

## 特集 「阪神・淡路大震災時の障害者の生活と支援」

今回は、障害者の阪神・淡路大震災時の生活や、支援をテーマに取り上げます。特にセンター所蔵の震災資料より、障害を持った人の震災当時の暮らしをお伝えします。また現在の取り組みも一部ご紹介します。



### 阪神・淡路大震災で被災した障害者

阪神・淡路大震災において、障害者で死亡したのは、226人(1995年8月31日現在)（注1）で死者全体の約3.5%でした。1994年3月末時点で、災害救助法に指定された10市10町(当時)に住む身体障害者手帳を持つ人は10万4,042人、知的障害者で療育手帳を持つ人が1万1,715人いて、700人程が両方の手帳を持っていました。数字の上だけでは障害者がより多く亡くなったという結果は見られませんが、障害を持った多くの方が施設に入所していたことを考え合わせると、在宅で暮らしていた人の死亡率はやや高いと言えます。（注2）

また、生き延びた障害を持つ人のその後にも大変な苦労がありました。例えば、震災時に情報を伝達してい

たラジオ放送が聴覚障害者や知的障害者には伝わらず、また、がれきが路上をふさぎ、点字ブロックが寸断されることで視覚障害者は歩くことが出来ませんでした。（注3）障害者やその家族が避難所にたどりついても、トイレが使えない、移動が出来ない、情緒不安定になり奇声を発するので居づらいなどの理由で、ライフラインが途絶えた自宅へ「帰る」という事態も相次ぎました。（注4）



写真は阪神・淡路大震災当時の様子  
(兵庫県広報課撮影)

#### 「災害弱者」とは

「災害弱者」とは、障害者、高齢者、妊婦、乳幼児、怪我や病気の療養者、外国人などの、災害が起って避難をする際にハンディを負う人々を指すとされます。（注5）災害時には、だれしもが被害を受けますが、「災害弱者」とよばれる人々はより大きな被害を受ける可能性があります。

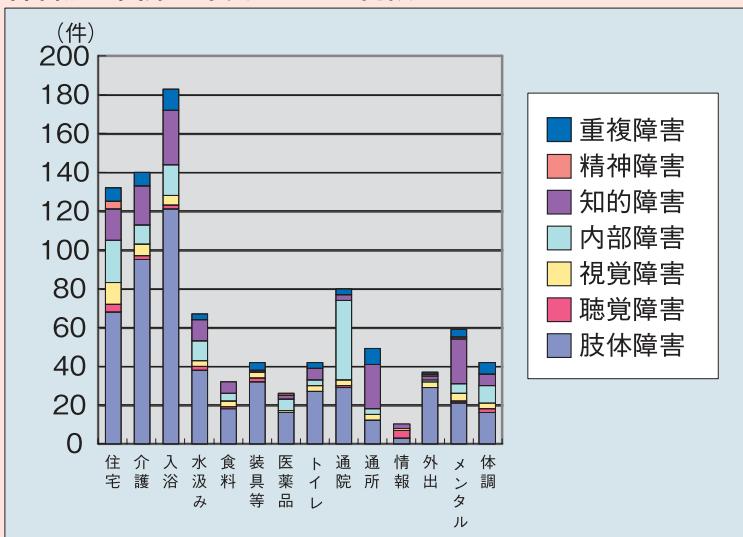
#### ■注・引用文献

- 注1 兵庫県肢体障害者協会、ボランティアグループつっこい棒発行(1997)『阪神・淡路大震災 その時障害者は…めげへん』part2, p30-35
- 注2 朝日新聞社編・発行(1996)『阪神・淡路大震災誌: 1995年兵庫県南部地震』p548-553
- 注3 1.17神戸の教訓を伝える会編、ぎょうせい発行(1996)『阪神・淡路大震災 被災地“神戸”的記録』p100-101
- 注4 震災復興調査研究委員会編、(財)21世紀ひょうご創造協会発行(1997)『阪神・淡路大震災復興誌 第1巻』p306-310
- 注5 災害弱者支援指針策定委員会(兵庫県)作成(2002)『災害弱者支援指針』

## 震災時の障害者の困難

障害別に見た困難や不安などの問題の内訳は図のようになっています。下図は、兵庫県南部地震障害者支援センターが1995年1月27日から2月18日までの間、神戸市の依頼により、のべ1500人のボランティアの参加を得て2902件（肢体障害1228、内部障害626、知的障害402、視覚障害59、精神障害15、聴覚障害27、重複障害98、不明447）に訪問調査した結果です。全体を通して、住宅、入浴に関する要望や悩みが多く出されていることがわかります。障害別に見ると、肢体障害者は介護面で困難なケースが多く、内部障害者は通院に困難をかかえているケースが多くみられます。また、なんらかの問題があると答えた知的障害者家族の2割以上が、本人の精神状態が不安定なことを訴えていることが特徴的です。

### 障害別の困難・不安ケースの内訳



### 内部障害とは

内部障害は、内臓機能の障害を指します。身体障害者福祉法では、心臓機能障害、じん臓機能障害など、6種類の機能障害が定められています。

### ■出典

「東灘区・灘区・兵庫区の障害者・家族の状況」

兵庫県南部地震障害者支援センター合同対策本部発行（1995）『阪神・淡路大震災＜障害者支援活動のまとめ＞』P27-34

## 所蔵資料から見る障害者支援

震災当時、被災障害者には、障害を持たない被災者への支援とはまた異なった支援がなされました。その一端がわかる、当センター所蔵の資料の一部を紹介します。



### 支援内容を知らせるビラ

1995年1月20日に京都市周辺の共同作業所や障害者団体などで組織された「被災『障害』児・者支援の会」作成のビラ。同会では安否確認と情報収集のほか、活動内容を知らせるビラ（写真左）を配り、要望を聞いて周りました。震災から3ヵ月間で総勢1213人がボランティアとして関わりました。

資料提供：青陽東養護学校避難所自治会



## ビニール製のチョッキ

震災直後から、手話通訳者や聴覚障害者が、神戸市内約400カ所以上の避難所を1ヶ月間かけて回り、聴覚障害者の救援活動を行いました。その時、支援者が身につけたもの。避難所でコミュニケーションが取れない、放送が聞き取れないために救援物資の情報が得られないなど、様々な困難に直面していた聴覚障害者にとって、この表示はどんなに心強かったことでしょう。

資料提供：(社)兵庫県聴覚障害者協会

## 障害者ネットワークによる情報発信

右は多くの他団体でも所有されていたニュースレターです。兵庫県内の障害者団体など43団体が参加し発足した「被災地障害者センター」（現在、特定非営利活動法人「拓人こうべ」）が発行し、全国の支援ネットワークを形作りました。同センターは、その後も緊急支援から生活支援へと、地域に根ざした活動を展開しています。

資料提供：被災地障害者センター（提供当時の団体名）



## 関連図書の紹介



震災当時の障害者の状況や災害支援等に関する資料です。いずれも資料室に所蔵していますので、関心をもたれた方は資料室にお越しください。

題名	著者・記事作成者	発信者・発行者
大震災と社協	兵庫県社会福祉協議会(編)	阪神・淡路大震災社会福祉復興本部
阪神大震災被災地における視覚障害者避難調査報告書		社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 災害時における視覚障害者避難調査委員会
視覚障害被災者とボランティア ハビーからの伝言	阪神大震災視覚障害被災者支援対策本部(編)	(株)大活字
阪神・淡路大震災 聴覚障害者救援活動報告書		(財)全日本聾啞連盟
阪神・淡路大震災－その時、精神障害者と家族は－	(社)兵庫県精神障害者家族会連合会(編)	(社)兵庫県精神障害者家族会連合会
阪神大震災に遭遇した兵庫県の精神障害者小規模作業所の今		(社)兵庫県精神障害者家族会連合会
あの人の声が聞こえる－阪神大震災と障害者－	全障研兵庫「阪神・淡路大震災障害者実態調査」委員会	全国障害者問題研究会出版部
視覚障害被災者の10年－阪神・淡路大震災メモリアルイベントの記録－	特定非営利活動法人 神戸アイライト協会(編)	特定非営利活動法人 神戸アイライト協会
できることからはじめよう 災害弱者防災ハンドブック	災害時における障害者の支援・救援を考える会(編)	特定非営利活動法人 レスキュー・ストックヤード
障害のある人への災害支援 災害時の障害者援護に関する検討委員会報告書		社会福祉法人 全国社会福祉協議会

## 関連情報

### 兵庫県立聴覚障害者情報センターが送信する 聴覚障害者災害等緊急時情報発信システムがスタート

地震や風水害が起きた際、あらかじめ登録された携帯電話などに聴覚障害者向けの「兵庫県立聴覚障害者情報センターからの緊急メール」が送信されるシステムが始まりました。また、聴覚障害者向けのお役立ち情報をお伝えする「兵庫県立聴覚障害者情報センターからのお知らせメール」も届きます。

それらとは別に「お住まいの地域(県民局・市町)からの緊急メール・お知らせメール」もあります。それぞれ別々に登録する必要があります。ひょうご防災ネット(<http://bosai.net/>)から登録できますので、詳しくは、ひょうご防災ネットホームページをご覧下さい。

## レポート

### 夏休み防災みらい学校2006

#### ワークショップ-2「つなみってどんなもの?~紙芝居・稻むらの火から学ぼう~」

8月27日(日)開催



当日は、4歳から10歳までの子ども約15人と保護者が参加しました。まず、センターボランティアの早川弘さんが、大型紙芝居「稻むらの火」を実演。大切な稻むらに火をつけ村人を助けた儀兵衛の知恵や勇敢さ、そして助け合うことの大切さを学びました。

さらに、鈴木進吾専任研究員扮する「つなみ博士」が登場。津波のしくみを物語風の絵を使って、わかりやすく説明しました。さらに、津波が起こった場合、「近くの高いところに逃げる」「自分の命を守る」ことが大切と強調しました。



後半は、2004年12月のスマトラ沖津波・地震で被害にあったタイ・ピピ島の子どもたちの絵・作文集「みんなのピピ島」(写真右)の読み聞かせを行いました。子どもたちはしんみりした表情で聞き入っていました。



資料室からの  
お知らせ

### ホームページがリニューアルされました!

震災、防災関連の資料、図書・雑誌などの目録検索に加え、「震災と復興のデータベース」やセンターの語り部のインタビューを収録した「震災を語り継ぐ」も閲覧できます。震災資料とともにぜひご覧ください。

#### 阪神・淡路大震災記念

#### 人と防災未来センター 資料室 (防災未来館2F)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

〈開室時間〉 9:30~17:30 (7~9月は18:00)

〈閉室日〉 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)・12月29日から1月3日

資料室は無料で  
お入りいただけます。